

(様式6)

件 名：	史跡周防鋳銭司跡における新たな銭種「富寿神宝」の発見について
担当課：	教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財担当 （電話：083-920-4111）

1. 鋳銭司・陶地区文化財総合調査事業について

本事業では、山口市と山口大学が連携して市南部の鋳銭司・陶地域にある周防鋳銭司関連遺跡の調査等を行っています。

[事業開始の経緯]

平成27年度に山口大学から山口学研究センター研究プロジェクト「古代テクノポリス山口～その解明と地域資産創出を目指して～」への協力依頼があったことを契機とし、平成28年度から大学・行政・地域の協働による取組として、連携事業を開始しました。

文化財保護課は、史跡周防鋳銭司跡の発掘調査をはじめとして、鋳銭司・陶地域に点在する周防鋳銭司関連遺跡・伝承地の各種調査を行い、周防鋳銭司の実態解明を進めるとともに、史跡周防鋳銭司跡の活用に取り組んでいます。

[事業の経過]

史跡周防鋳銭司跡では、昭和40年代に第1次・第2次発掘調査を実施して以降、調査が行われていませんでしたので、山口大学と協働で、文化庁の補助事業を活用して、平成29年度から発掘調査を開始しました。最終年度である令和2年度末には発掘調査報告書『史跡周防鋳銭司跡』を刊行しました。

山口大学との連携事業で行った調査等により、一定の成果が得られたものの、解明すべき課題もあることから、令和3年度以降も引き続き史跡周防鋳銭司跡の発掘調査をはじめとする各種調査を継続することとなりました。調査は山口大学の協力も得て進めることとしており、山口大学山口学研究センターにおいても、研究プロジェクト「古代テクノポリス山口～その解明と地域資産創出を目指して～」が令和7年度まで5年間延長されることとなりました。

令和3年度には史跡地において発掘調査（第7次調査）を行い、令和4年度に発掘報告書『史跡周防鋳銭司跡2』を刊行しました。

また、令和3・4年度の2か年で、史跡の保存活用の方針と方向性

及び方法を定めた「史跡周防鋳銭司跡保存活用計画」を策定しました。

本計画の計画期間は令和5年度から9年度までの5か年で、計画期間中は史跡をはじめ周防鋳銭司関連遺跡の調査を重点的に行うこととしています。

2. 調査体制

山口大学山口学研究センター・人文学部

山口市教育委員会文化財保護課

※調査は、山口市教育委員会が設置した史跡周防鋳銭司跡調査検討委員会の指導を仰ぎながら進めています。

参考：史跡周防鋳銭司跡調査検討委員会委員名簿（令和6年4月1日現在）

	氏 名	分 野	役 職 等
○	渡辺 一雄	学識経験者（生産遺跡）	元梅光学院大学副学長
	池田 善文	学識経験者（鑄造遺跡）	元長登銅山文化交流館館長
	林部 均	学識経験者（官衙遺跡）	国立歴史民俗博物館教授
	大林 潤	学識経験者（建築史）	奈良文化財研究所上席研究員
	黒羽 亮太	学識経験者（古代史）	山口大学人文学部准教授
	本廣 正則	地元代表	鋳銭司自治会会長
	伊藤 健司	地元代表	陶連合自治会会長

○は会長

3. 調査経過

- ・ 第1次調査 期間：昭和40年8月20日～昭和41年3月20日
面積：422㎡
- ・ 第2次調査 期間：昭和47年2月24日～3月31日
面積：2,167㎡
- ・ 第3次調査 期間：平成29年8月28日～3月13日
面積：450㎡
- ・ 第4次調査 期間：平成30年8月28日～平成31年3月30日
面積：346㎡
- ・ 第5次調査 期間：令和元年8月26日～12月10日
面積：116㎡

- ・ 第6次調査 期間：令和2年4月30日～令和3年1月7日
面積：315㎡
- ・ 第7次調査 期間：令和3年8月10日～令和4年3月30日
面積：150㎡
- ・ 第8次調査 期間：令和5年7月3日～令和6年3月28日
面積：225㎡

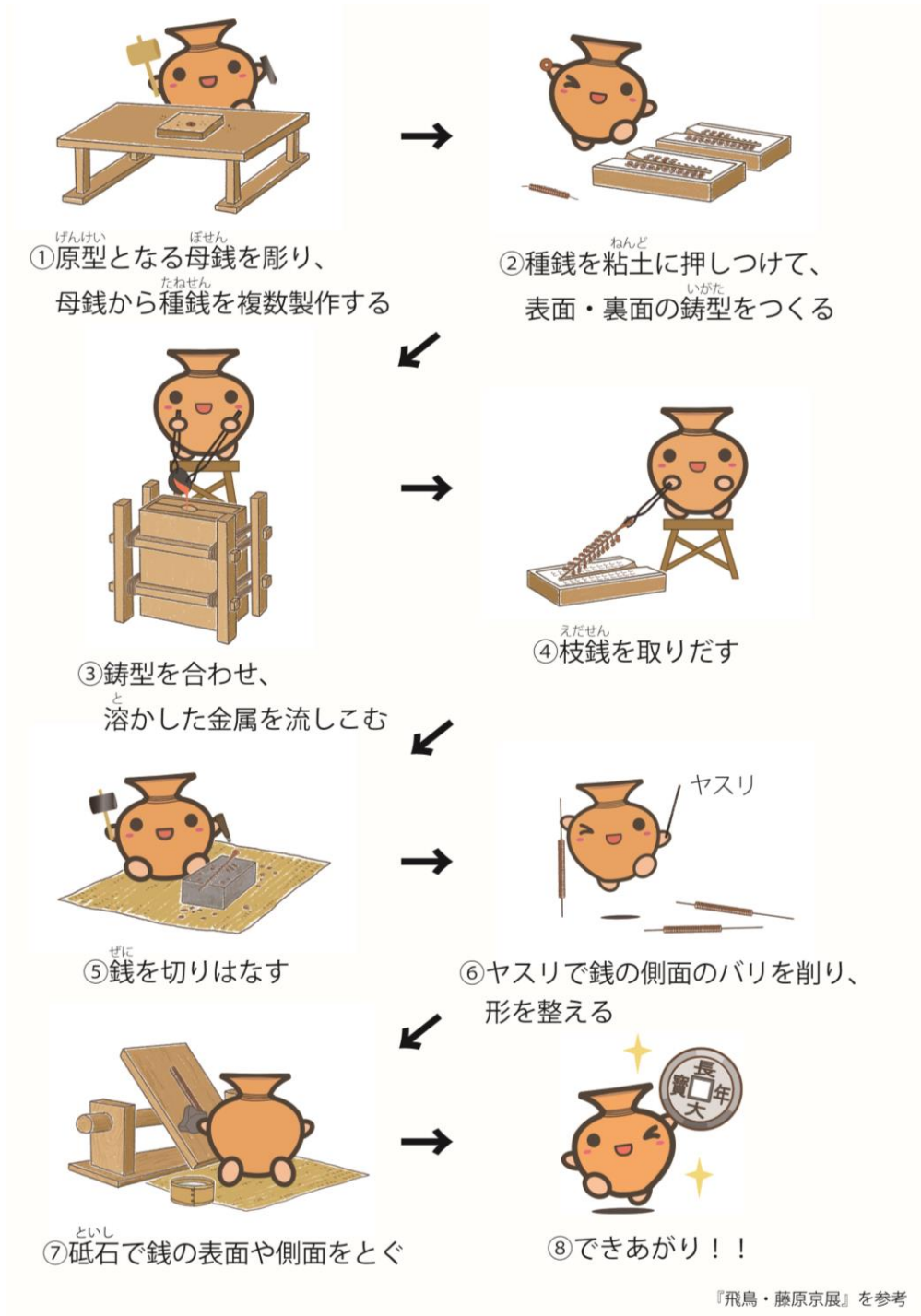
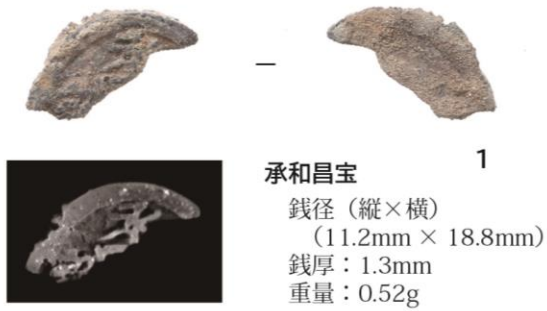
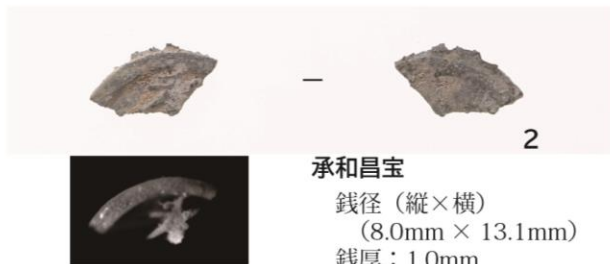


図1 古代のお金づくり（イメージ）

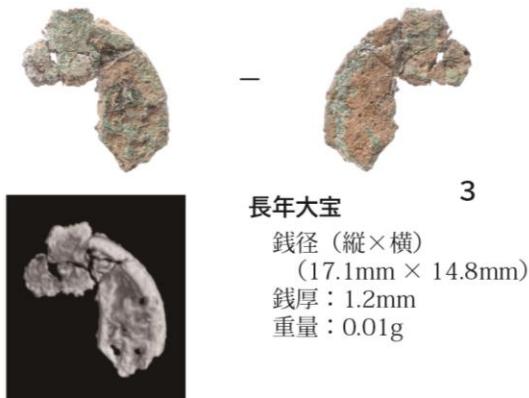
○参考：これまでに出土した古代の銭貨（山口市指定文化財）



1
承和昌宝
銭径（縦×横）
（11.2mm × 18.8mm）
銭厚：1.3mm
重量：0.52g



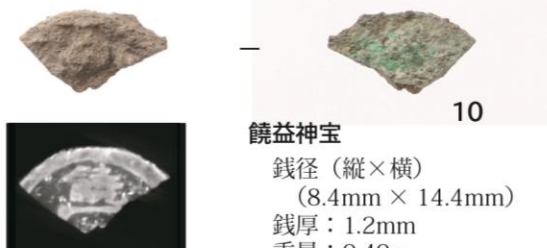
2
承和昌宝
銭径（縦×横）
（8.0mm × 13.1mm）
銭厚：1.0mm
重量：0.20g



3
長年大宝
銭径（縦×横）
（17.1mm × 14.8mm）
銭厚：1.2mm
重量：0.01g



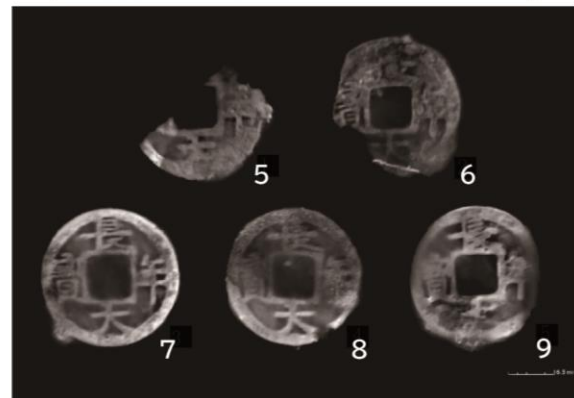
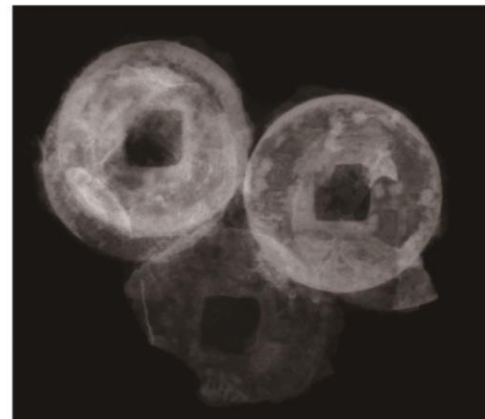
4
長年大宝
銭径（縦×横）
（7.8mm × 7.4mm）
銭厚：1.1mm
重量：0.01g



10
饒益神宝
銭径（縦×横）
（8.4mm × 14.4mm）
銭厚：1.2mm
重量：0.40g



5～9
長年大宝



重量：7.27g
5 銭径：20.0mm 銭厚：1.0mm
6 銭径：20.0mm 銭厚：1.0mm
7 銭径：20.0mm 銭厚：1.2mm
8 銭径：20.2mm 銭厚：1.2mm
9 銭径：20.1mm 銭厚：1.2mm

※写真は、原寸×約1.4倍（5～9個別X線CT画像は、ほぼ原寸）

※X線CT画像は、公益財団法人元興寺文化財研究所（1～2、5～10）及び九州歴史資料館（3～4）提供

	銭 種	特 徴	調査次数
1	承和昌宝	「承」の字と「宝」のウ冠が確認できる小破片。外輪に鋳張りあり。	4次
2	承和昌宝	「承」の字が確認できる小破片。外輪に鋳張りあり。	
3	長年大宝	「長」と「年」の字が確認できる破片。外縁、内郭に鋳張りあり。	1次
4	長年大宝	「年」の字のみが確認できる小破片。外縁に鋳張りあり。	
5	長年大宝	「年」と「大」が確認できる破片。「長」と「宝」の字のある左上側が欠ける。	3次
6	長年大宝	「長年大宝」の字が確認できる。「大」の左側が欠ける。内郭に鋳張りあり。	
7	長年大宝	完形。「長年大宝」の字が確認できる。外輪に鋳張り、湯口痕あり。内郭に鋳張りあり。	
8	長年大宝	完形。「長年大宝」の字が確認できる。	
9	長年大宝	「長年大宝」の字が確認できる。「年」側が裏側に湾曲。外輪に鋳張りあり。	
10	饒益神宝	「饒」の字のみ確認ができる小破片。外輪と内郭に鋳張りあり。	4次